

情報のやりとりにおける受信者側の働き

—日本語話者と韓国語話者の比較—

申 媛善

キーワード：情報受信者、会話スタイル、情報受信、情報要求、情報提供

1. はじめに

相手の話を聞きながら頻繁にあいづちを打つ日本人の話し方は、外国人に「自分の意見に賛成している」、「話の途中で言葉をはさむなんて無礼だ」（水谷 1988）などと、時に誤解されることがある。一方、韓国人は相手に言葉で積極的に働きかけることから「質問好き」（任、井出 2004）とよく言われる。前者は日本語、後者は韓国語における会話スタイルのことを言っており、その中でも特に、あいづちや質問など、会話における情報のやりとりの中で情報を受信する側の言語行動のことを指している。両言語についてよく言われるこのような会話スタイルの特徴は、実際の言語行動にどのように表れているのだろうか。そこで、本稿では、日本語と韓国語の初対面会話を対象に、やりとりの中で情報を受信する側の言語行動が両言語においてどのように違うのかに注目した。その結果、日本語はあいづちや感想を中心とした共話的な会話スタイル、韓国語は情報要求や意見を中心とした積極的な会話スタイルであることが明らかになった。

2. 研究方法

2.1 会話資料

用いた会話資料は初対面日本語話者 3 組、韓国語話者 3 組による、各 10 分、計 60 分のものである。日本語話者は日本語で、韓国語話者は韓国語で会話をした。社会的条件が会話に及ぼし得る影響を排除するため、会話参加者は全員女性で日本在住の大学院生と統制した。会話参加者の組み合わせを【表 1】に示す。括弧内は録音当時の年齢で、M は修士、R は研究生の略である。

【表 1】会話参加者の組み合わせ

	日本語話者		韓国語話者 ¹	
1	J1(24,M1)	J6(24,M2)	K1(24,M1)	K2(25,M1)
2	J2(23,M1)	J5(23,M1)	K3(24,M2)	K4(24,R)
3	J3(24,M2)	J4(24,M2)	K5(27,M1)	K6(27,M2)

¹ 韓国人の日本滞在歴は稿末の「韓国人の日本滞在歴」を参考されたい。

録音した会話を宇佐美(2003)の BTSJ に従って文字化し、日本語 626、韓国語 790 の発話を得られた。

2.2 分析単位

本稿における分析単位は話題を基準に区切ったものとする。話者 2 人の情報のやりとりを見るために、話されている内容が誰に属するものかによって、同じ話題でも情報提供者が交代する場合、2 つに分けるようにした。例えば、(例 1) は同じく「所属」についての話題だが、13、14 行は J4 の所属のことで J4 が情報を提供する側となり、15-18 行は J3 の所属のことで J3 が情報を提供する側となることからそれぞれ 1 個と数えた。以降、会話例に使用された記号については稿末の記号凡例を参照されたい。

(例 1) J3 の所属&J4 の所属

発話番号	発話者	発話内容	話題
13	J4	私、環境研なんですよ。	
15	J4	どちらですか？	
16	J3	あ、環境研の所属なんです。(61) 所属は「学研会」でした。	
17	J4	あ、そうなんですか。	

2.3 分析対象

話題で区切られた各やりとりを情報共有の如何によって区別し、話者 2 人のうち、片方のみが情報を持っているやりとりを分析対象とした。つまり、相手との共通するところがなく自分のみに関係する情報や過去の出来事などを、相手の質問、あるいは自ら述べており、情報を提供する側と情報を提供される側がある程度固定されているやりとりである。その際、情報を持っており相手に提供する側を情報提供者、情報を持っておらず提供される側を情報受信者とする。例えば、(例 1) は J1 がアルバイト先で茨城弁が移ったという体験を J6 に話している場面であり、J1 が情報提供者、J6 が情報受信者となる。

(例 2) 茨城弁に対する J1 の体験、提供者：J1、受信者：J6

発話番号	発話者	発話内容
149	J1	やー、私移った。
150	J1	=去年「お店の名前」で働いてたんですよ (<笑い>)。
151	J1	半年だけ。
152	J1	そしたら、なんか、みんな地元のおばさんとかだから (うん)、すごい、もう、いば弁ぜんかいで。
153	J1	あ、いば弁か。
154	J1	あ、分かりますよ。
155	J1	おじさんとか、本当にじいちゃんとか (うん) の人は何言ってるかすら分からないけど。
156	J1	ま、おばさんっていうか、主婦の人だから分かるんですけども。
157	J1	いば弁

158	J1	イントネーションが。
159	J2	掘いんですよね、しゃべり方が。
160	J1	早いし、上がってるし。
161	J1	うーん。

本稿では情報を持っていない側、即ち、情報受信者の言語行動に焦点を当て情報を持っている側からどのように情報を提供してもらうのか、また提供された情報に対しどのような反応するのかに注目する。以降、会話例において受信者となる話者の発話は色をつけて表示する。

2.4 発話の分類基準

あいづちや質問といった日本語と韓国語の会話スタイルを考慮し、情報受信者の発話を①情報受信、②情報要求、③情報提供に大きく分類した。なお、①情報受信は「あいづち詞」、「繰返し」、「言換え」に、②情報要求は「話題提示のための情報要求」、「話題展開のための情報要求」に、③情報提供は「事実」、「感想」、「意見」にさらに分類した。以下に各分類項目の例を挙げる。

① 情報受信

「情報受信」とは、相手から提供された情報を受信した旨を表す発話である。「情報受信」はその表現形式によって、「あいづち詞」、「繰返し」、「言換え」に細分類した。「あいづち詞」は堀口（1997）に従い、「はい」「ええ」「そう」「ほんと」「なるほど」など、一般にあいづちといわれるものとした²。「繰返し」は相手の直前の発話の一部または全部を繰り返すものである。また、「言換え」は相手の発話を他の語句によって表すものを指す。形式は異なるが、これらは全て「相手の発話を聞いているという表れである（堀口 1997）」という点で共通する。以下に例を提示する（「→」は該当発話を表す、以下同様）。

（例3）「あいづち詞」（[大学名1]のホッケー部の実力、提供者：J5、受信者：J2）

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
272	J2	[大学名1]大のホッケー部ってどうなる。	話題提示
→ 273	J5	あ、男子は強いです。	
→ 274	J2	うん。	あいづち詞
275	J5	男子は2部(うん)、関東で2部とかに行ってる(うん)、けっこう強いのかな。	
276	J5	女子はそんなに(うーん)、全然。	
→ 277	J5	あのう、あそこ知ってます、[大学名2]大、[高校名]高？。	
→ 278	J2	うん、うん、うん。	あいづち詞
→ 279	J5	あそこに負けるくらい。	
→ 280	J2	あ、そうなんだ。	あいづち詞

² 韓国語の「あいづち詞」は、日本語に対応するよう生越（1980）に従い、「예 ye (はい)」、「네 ne (ええ、はい)」、「응 ung (うん)」、「그래 kurae (そう)」、「아 a (あー)」などにした。

(例4)「繰返し」(今の研究室になった経緯、提供者：J4、受信者：J3)

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
56	J4	本当はちょっときれいなところに行きたくて(＜笑い＞)外の”研究室に行きます”って言おうと思ったんだけど、あのう、今いるところの先生に「いや、大丈夫だから」っていわれて、	
57	J3	＜笑いながら＞大丈夫って？	繰返し
58	J4	＜笑いながら＞いや、分からないけど、そのままなんか今に至って、	
59	J3	至ってしまいましたか？	繰返し
60	J4	至ってしまって、“あ、なんで私ここにいるんだろう”と＜笑い＞。	
61	J3	えー。	あいづち語

(例5)「言換え」(J1の所属、提供者：J1、受信者：J6)

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
5	J6	学類は？	
6	J1	学類じゃなくて大学院なんですけど。	
7	J6	あ、研究所…	直し/繰返し
8	J1	はい。	

② 情報要求

情報要求とは情報提供者から情報を引き出す発話であり、その発話によって新しい話題が始まったか、話題は変わらず話が進展したかで「話題提示のための情報要求」と「話題展開のための情報要求」に分けることができる³。(例6)において50行が「話題提示のための情報要求」、53行が「話題展開のための情報要求」に当たる。

(例6)「話題提示の情報要求」、「話題展開の情報要求」(K6の論文、提供者：K6、受信者：K5)

発話番号	発話者	発話内容	発話種類	話題
134	K6	같은 나이를 보니까 디게 반갑네요. 同い年の人に出って嬉しいです。	感想	
135	K5	오, 디게 반갑네요 <웃음> 오, 그렇습니다 <웃음>		年齢
136	K5	논문은 어떤 걸로 쓰세요? 論文はどんなことについてですか?	話題提示	
137	K6	저는 실험 해 가지고 쓰는데(에), 실험을 되게 여러 개 해야되가지구, 약간, 한국에서 했던 거랑 여기서 하는 거랑 틀리고 해서(아-) 또, 새로운 분야라서, 私は実験をやって(え)、実験をすごいいくつかやらないとだめで、若干韓国でやってたのとここでやってるのが違ったりして(あ-)、また、新しい分野で、		
138	K5	네, 그렇습니다. そうなんだ。	あいづち	
139	K6	교수님도 잘 모르고 해 가지고, 先生もよく分からなかったりして。		
140	K5	오, 그렇습니다. 그렇습니다.	あいづち	
141	K6	오, 그렇습니다? そうですね、どうしてなんですか?	話題展開	論文

³ 情報要求以外に他の言語行動によって話題が始まる場合も想定されるが、今回の調査ではK4が感想によって話題が始まったケースが1件あっただけだったことから、他の項目においては話題と関連する細分類を行わなかった。

3. 結果

3.1 話題の種類と談話数

各会話を話題によって区切った結果、日本語会話からは 74、韓国語会話からは 80 のやりとりが抽出された。そして、それらのやりとりを、話される内容が話者 2 人のうち片方に属するものか、2 人とも該当するものかを調べ、前者を「片方話題」、後者を「両方話題」と分類した。情報源が片方にのみある「片方話題」が本稿の分析対象となるやりとりであり、日本語が 58、韓国語が 73 あった。あいさつなどの「儀礼」及び「両方話題」は分析対象から除外した。個人別の話題数は【表 2】と【表 3】に記した通りである。表の見方は、例えば J1 において、片方話題 6 という数字は J1 が情報提供者となる話題が 6 つあったということで、その下の 4 は J1 と J6 が両方とも情報提供者となる話題が 4 つあったことを示す。

【表 2】日本語話者による話題の数

	J1,J6 ペア		J2,J5 ペア		J3,J4 ペア		計
	J1	J6	J2	J5	J3	J4	
片方話題	6	11	7	16	8	10	58
両方話題	4		7		2		13
儀礼	0		2		1		3
計	21		32		21		74

【表 3】韓国語話者による話題の数

	K1,K2 ペア		K3,K4 ペア		K5,K6 ペア		計
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	
片方話題	13	15	15	11	9	10	73
両方話題	0		2		4		6
儀礼	1		0		0		1
計	29		28		23		80

三牧（1999）によると、日本語母語話者の大学生が初対面会話で選択する話題は、①大学生活、②所属、③居住、④共通点、⑤出身、⑥専門、⑦進路、⑧受験の 8 種類にカテゴリ化できるという。今回の調査に出現した話題もほとんどこの範囲にとどまるもので、⑧受験以外の話題が全て出現し、日本語と韓国語での違いは見られなかった。しかし、「両方話題」の場合、日本語の方が 13 であるのに比べ、韓国語は 6 でその半分にとどまっている。これは話者同士が一プライバシーの侵害にもなりかねない「片方話題」よりは、「現在 2 人で居住している町の方言」や「片方の話者の故郷に他方の話者が行ったことがありその町についての話題」など、2 人に共通する話題や「幼稚園の教育」など 2 人とも客観的に話せる話題をみつけようと努めた結果だと思われる。

3.2 情報受信者の発話

抽出したやりとりの中で情報受信者の発話を 2.4 節の基準によって分類した。【表 4】が日本語話者、【表 5】が韓国語話者によるものである。右側の括弧内の数字が実際出現した発話の数であり、左側は総発話数を 100 として換算した場合の数字である。以降は主にこの 100 換算値をもって論を進める。

【表 4】日本語情報受信者の発話の種類と数

		J1	J6	J2	J5	J3	J4	平均	小計
情報受信	あいづち詞	71.2 (42)	21.1 (4)	38.4 (33)	30 (12)	66.7 (22)	62.5 (34)	48.3 (148)	56.6 (168)
	言換え	3.4 (2)	15.8 (3)	1.2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3.4 (6)	
	繰返し	3.4 (2)	5.3 (1)	7 (6)	2.5 (1)	9.1 (3)	1.8 (1)	4.9 (14)	
情報要求	話題提示要求	8.4 (5)	10.4 (2)	8.1 (7)	15 (6)	9.1 (3)	10.7 (6)	10.3 (29)	23.7 (70)
	話題展開要求	3.4 (2)	26.3 (5)	24.3 (21)	12.5 (5)	0 (0)	14.3 (8)	13.5 (41)	
情報提供	事実	5.1 (3)	21.1 (4)	12.8 (11)	10 (4)	0 (0)	7.1 (4)	9.4 (26)	19.7 (55)
	感想	5.1 (3)	0 (0)	7 (6)	27.5 (11)	15.1 (5)	1.8 (1)	9.4 (26)	
	意見	0 (0)	0 (0)	1.2 (1)	2.5 (1)	0 (0)	1.8 (1)	0.9 (3)	
計		100 (59)	100 (19)	100 (86)	100 (40)	100 (33)	100 (56)	100 (293)	100 (293)

【表 5】韓国語情報受信者の発話の種類と数

		K1	K2	K3	K4	K5	K6	平均	小計
情報受信	あいづち詞	22.4 (13)	7.4 (4)	28.1 (9)	26.1 (24)	57.7 (30)	40.6 (22)	30.4 (102)	37.5 (126)
	言換え	1.7 (1)	3.7 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1.9 (1)	1.2 (4)	
	繰返し	5.2 (3)	7.4 (4)	6.3 (2)	5.4 (5)	3.8 (2)	7.4 (4)	5.9 (20)	
情報要求	話題提示要求	20.7 (12)	14.8 (8)	21.9 (7)	10.9 (10)	5.8 (3)	7.4 (4)	13.6 (44)	39.9 (139)
	話題展開要求	27.6 (16)	31.5 (17)	15.6 (5)	32.6 (30)	15.4 (8)	35.2 (19)	26.3 (95)	
情報提供	事実	13.8 (8)	20.4 (11)	12.5 (4)	1.1 (1)	3.8 (2)	1.9 (1)	8.9 (27)	22.6 (77)
	感想	6.9 (4)	7.4 (4)	3.1 (1)	9.8 (9)	5.8 (3)	5.6 (3)	6.4 (24)	
	意見	1.7 (1)	7.4 (4)	12.5 (4)	14.1 (13)	7.7 (4)	0 (0)	7.2 (26)	
計		100 (58)	100 (54)	100 (32)	100 (92)	100 (52)	100 (54)	100 (342)	100 (342)

【表 4】と【表 5】を比較してみると、「情報受信」の割合は日本語が、「情報要求」は韓国語が高く、従来言われていることや予想と一致する結果だといえる。以下、4 節で各項目別の分析を行うこととする。

4. 分析

3 節では、全般的な調査の結果を提示した。4 節では分類項目別に日本語と韓国語を比較しながら考察する。

⁴ いわゆるあいづち的発話と実質的発話（杉戸 1987）を一緒にしていいのかという反論もあり得るが、本稿の目的は、提供された情報に対する受信者の反応を考察することにあるため、発話の長さや内容に関係なく受信者側の発話を統括して考えた方がいいと判断した。

4.1 情報受信

「情報受信」は、全体的には日本語 56.6%と韓国語 37.5%で日本語の方が多かった。中でも、「あいづち詞」は日本語 48.3%、韓国語が 30.4%と差が開いており、「情報受信」における日韓の差は主に「あいづち詞」に起因すると思われる。「日本人はあいづちをよく打つ」といった従来の印象と一致する結果だといえよう。

「あいづち詞」はさらに、独立してターンを取っているものと相手の発話の途中で発せられたものに分けることができる。便宜上、前者を「独立あいづち詞」、後者を「文中あいづち詞」と呼ぶこととする。「あいづち詞」のうち、「独立あいづち詞」と「文中あいづち詞」の割合を示すと以下の【表6】のようになる。

【表6】「独立あいづち詞」と「文中あいづち詞」の割合

	文中あいづち詞	独立あいづち詞	計
日本語	82.3%	17.7%	100%
韓国語	39.2%	60.8%	100%

【表6】を見ると、日本語の「あいづち詞」のうち、約8割が「文中あいづち詞」であるのに対し、韓国語の場合、「独立あいづち詞」の方が約6割を占めており、両言語が相反する構成となっている。このことから、日本語話者は相手の発話の途中で頻繁にあいづちを打つのにに対し、韓国語は相手の発話がいったん終わり、発話権が譲られた際にあいづちを打つことが多いと判断される。日本語と韓国語におけるあいづちの打ち方の違いは、相手の発話中にあいづちを打つか、発話が終わってから打つかにあるといえよう。

また、「独立あいづち詞」をめぐる談話展開においても両言語では異なる傾向が見られた。

(例10) J6の出身と方言、提供者：J6、受信者：J1

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
136	J1	음, 어디서ですか?	話題提示
137	J6	私福岡なんです、九州。	
138	J1	아-	あいづち語
139	J6	でも方言出なくて。	
140	J1	へー	あいづち語
141	J6	実家に帰ったり、友達としゃべると出るんですけど。	

(例11) K2の日本滞在歴、提供者：K2、受信者：K1

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
121	K1	그런 츠쿠바에 간 계속 계셨어요? では、つくばにだけずっといらしたんですが、	話題提示
122	K2	그렇요, 츠쿠바에만 계속 있죠. そう、つくばにずっといました。	
123	K1	아-	あいづち語
124	K1	여행은 저 안 다녀왔어요? 旅行とか行かないですか。	話題提示
125	K2	간단히, たまに。	

(例 10) と (例 11) は、それぞれ受信者となる J1 と K1 が提供された情報に対してあいづちを打ち情報を受信したことを表している場面である。しかし、(例 10) で J1 が「あー」、「へー」など、あいづちを打ってから再び提供者の J6 に発話権を譲っているのに対し、(例 11) における受信者 K1 は「あー」とあいづちを打った後、「旅行とか行かないですか」と自分でターンをとっている。このように、あいづちを打った後ターンを取る割合は日本語が 26.7%、韓国語が 42.5%あり、韓国語でより多く見られた。発話権を譲る日本語話者のあいづちは、独立してターンを取る場合でも「文中あいづち詞」と似たような性格を持ち、ただ「聞いている」ことを表すものだといえる。それに対し、発話権を維持する韓国語話者のあいづちは、相手の発話内容を「理解した」という合図になるだろう。このように日本語話者は「聞いている」との合図を出し次々と新たな発話を促すのに対し、韓国語話者は理解を表示し自分がターンを取り談話展開を主導しているように考えられる。

4.2 情報要求

「情報要求」においては全体的に日本語が 23.7%、韓国語が 39.9%と予想通り韓国語の方が高かった。項目別にみると、「話題提示のための情報要求」では日韓の差がそれほど大きくなかったが、「話題展開のための情報要求」においては日本語が 13.5% に対し、韓国語が 26.3%あり、韓国語が日本語の約 2 倍あった。このことから、韓国語話者に対する「質問好き」という印象は、「話題提示のための情報要求」よりは「話題展開のための情報要求」に起因するようと思われる。その裏づけとして、似たような話題なのに、日本語話者が相手に合わせる形で話題を進めるのに対し、韓国語話者は「情報要求」をすることで話題を展開する例が見られた。(例 12) と (例 13) は 同じく住まいに関する話題で話者 2 人が過去に同じ町に住んでいたか、現在同じところに住んでいることで共通するが、受信者側の進め方は日本語と韓国語で対照的である。

(例 12) J2 の住まい、提供者：J2、受信者：J5

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
77	J5	えー、どの辺に住んでるんですか、今。	話題提示
78	J2	私は今春日に住んでますね。	
79	J5	あ、カスミ？	話題展開
80	J2	4です、はい。	
81	J5	前住んでました。	事実
82	J5	なぜ。	事実
83	J2	なんか物騒ですね。	
84	J5	たよつとく悪いですね、「く」。	話題
85	J2	<いろいろなうわさが [>]。	
86	J2	なんか「危ない人が出るから気をつけなさい」みたいな。	
87	J5	うーん。	あいづち類

157	K4	야청만요. 家買だけて。	話題展開
158	K3	예, 야청만. はい、家買だけで。	
159	K4	어... 아...	あいづち
160	K4	맛있는 음식은 (뭔가) 비싸고 양자구야. (うん)아는そんなに多くはない。	意見

こうした「意見」の発話は、その内容においても日本語と韓国語で異なる傾向が見られる。日本語の情報受信者による「意見」が全て、第三者や情報提供者に直接関わらない第三の対象に対するものであるのに対し、韓国語の情報受信者による「意見」は相手の事柄についてのものが多く、約9割を占めていた。

(例 17) 留学生の息子、提供者：J3、受信者：J4

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
113	J3	小学校に行かなくていいのかな。	
114	J3	まあ、日本人じゃないから義務ではないけれど(うーん)、でも小学校1年生くらいなら日本語覚えつつ勉強もできるんじゃないのかな(ん)。	
115	J3	ひらがなも教わるの小学校ですもんね。	
116	J3	どっちがいいのか分かんないですけど。	
117	J4	幼稚園はとりあえずなんかな遊ぶ...	意見
118	J3	そんな感じですよ。	

(例 18) 韓国人との交流、提供者：K1、受信者：K2

発話番号	発話者	発話内容	発話種類
208	K1	그리구 저희 과 같은 경우는 한국인들이, 한국 분들이 다 너무 나이가 많으시기 때문에 애기를, また、うちの研究科の場合は韓国人が、韓国の方がみんなずっと年上で話を、	
209	K2	음기요. 작년 음기요? ... ここですが、それともあそこ?	話題展開
210	K1	[K2의 연구과]. [K1의 研究科].	
211	K1	저희 일본 코스과에 굉장히, 응, 다들 연세가 많으세요. うちの[K1の研究科]にすごい、うん、みんな年齢が上なんです。	
212	K1	그래서 말 하기가 되게 힘들어요. ... それで、話しかけづらいんですよ。	
213	K2	어... 그리고... えー、でも親しくなるといいのに。	意見
214	K1	음<웃음>. ... うーん<笑い>	

(例 17) において、受信者 J4 は、「同じ研究科の留学生の息子さんが年齢的には小学生であるにもかかわらず幼稚園に通っている」ことを心配そうにいう J3 に対し「幼稚園はとりあえずなんかな遊ぶ…」といい、間接的に賛同する意見を述べている。これは J4 が提供した話題ではあるが、意見をやる対象は研究科の同僚のお子さんであり、直接 J4 に関わることはない。反面、(例 18) において受信者の K2 は、「研究科内で韓国人との交流が少ない」という K1 自身に関する情報に対し、「えー、でも親しくなるといいのに」と述べている。これは、「韓国人との付き合い」といった相手の交友関係に直接意見する発話であり、日本語話者のそれと対照的である。

これらのことから、日本語話者は相手との調和を求めるのに対し、韓国語話者は自分を積極的に出すことで談話を展開していると考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上、受信者側の発話に注目し、情報を提供してもらった際、また提供された情報に対する言語行動が日本語と韓国語でどのように違うのかを考察した。

まず、「情報受信」については、日本語話者が相手の発話の途中、また、発話が終わってから頻繁にあいづちを打ちながら「聞いている」という合図を送り次々と新たな情報を促すのに対し、韓国語話者は相手の発話途中のあいづちは少なく、相手の発話が終わってからあいづちを打ち理解表示とともにターンをとり、談話展開を導く様子が見えられた。

「情報要求」については、日本語話者は「中途終了」や「いいよども」、「承認表示」を伴い、相手の領域を侵すことに対する控えめの態度を取るのに対し、韓国語話者は「話題展開のための情報要求」が多く「質問好き」と思われる大きな原因となっていると考えた。

最後に「情報提供」については、日本語話者が相手の未完成発話への完成や補足の形で自分の知っている「事実」を提供したり、相手の発話に対する反応を「感想」で提示したりするのに対し、韓国語話者は相手のことがらに対し積極的に自分の「意見」を表明することが分かった。

これらのことを踏まえて考えると、日本語話者は情報提供者に協調する形をとり、情報提供者自ら多くの情報を開示していくように仕向ける共話的なスタイルであると思われる。一方、韓国語話者は相手に直接情報を引き出し、それについての自分の考え方をはっきり表現しながら積極的に談話展開に参加する対話的スタイルといえよう。

どちらの言語も話者が6人だけという非常に限られたデータではあったが、両言語について直感的に言われていたことが本稿を通して検証されたことには意義があると思われる。今後はデータを増やしさらなる検証を続けるとともに、統計処理を行うことで有意差の検定を試みる必要があるだろう。また、これまでの日本語教育は主に話し手側に焦点が置かれていたと思われるが、これからは聞き手側の教育にも重点をおくべきではないかと考える。そのため、言語間の会話スタイルの違いを日本語教育にも生かせるよう、母語話者と韓国人学習者の日本語会話まで研究を広げていきたい。

【参考文献】

任榮哲・井出里咲子(2004)『箸とチョッカラク』大修館書店

宇佐まゆみ(2003)「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese : BTSJ) 『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』平成13-14年度 科学研究費補助金基盤研究C(2)研究成果報告書

- 奥山洋子(2004)『こんなに違う！韓国人と日本人の初対面の会話』보고사(Bokosa)
- 生越直樹(1988)「朝鮮語のあいづち—韓国人学生のレポートより—」『日本語学』7:12, pp.12-17
- 杉戸清樹(1987)「発話のうけつぎ」『国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相—座談資料の分析』三省堂, pp.88
- 泉子・K・メイナード(1993)『会話分析』くろしお出版
- 堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- ポリー・ザトラウスキー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの観察—』くろしお出版
- 水谷信子(1988)「あいづち論」『日本語学』7:12, pp.4-11
- 水谷信子(1993)「「共話」から「対話」へ」『日本語学』12:4, pp.4-10
- 三牧陽子(1999)「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析—」『日本語教育』103, pp.49-58
- 李麗燕(2000)『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究：会話管理の観点から』くろしお出版

Penelope Brown and Stephen C. Levinson(1987) *Politeness : some universals in language usage*, Cambridge University Press.

《記号凡例》

- 。 1 発話文の終わりにつける。
- .. 発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことを表す。
- ? 疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式でなくても、語尾を上げるなど、疑問の機能を持つ発話には、発話末に「?。」をつける。
- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
- < > {<}, < > {>}
- 同時に発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつける。また重ねた方の発話には< >の後に{>}をつける。
- () 相手の発話中に打たれたあいづちはその発話の最も近い部分に()にくくって入れる。

《韓国人の日本滞在暦》

K1	K2	K3	K4	K5	K6
4年	1年	1年半	3年	3年	2年半